



## 第5話 高丸様

天正年間（1573～1590）黒田官兵衛孝高が豊前六郷の大名となったころの話である。黒田孝高は、半黒田勢力の制圧にのりだした。そのころ佐知に高丸様という豪族がいた。高丸様は上方の方から来た豪族で、小高い所に豪邸を構え、多くの土地を所有し、大庄屋的存在であった。高丸様は、孝高の政策に服従しようとしないので、孝高は追手を差し向け、逃げる高丸様を斬った。

もう一説には、高丸様は役人として赴任して来て、人びとの信任が厚かった。高台の豪邸に住んでいたが、次第に下層農民の嫉妬するところとなり、遂に数人の農民により撲殺された、という。

高丸様の遺体と遺品を埋めた、といわれる高さ1メートル、広さ8畳敷ぐらいの塚が、故安藤円治所有の田にあった。住民はこの塚を「たかまるさま」・「こうまるさま」と呼んだ。圃場整備の時、お祓いをして壊した。この付近は今でも高丸(こうまる)という小字名で呼ばれている。